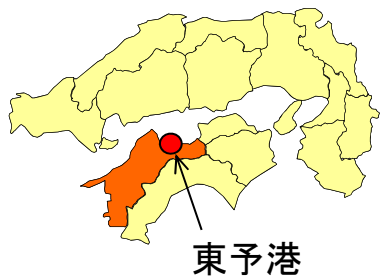


# 東予港 港湾計画 一部変更

平成26年3月18日  
交通政策審議会  
第55回港湾分科会  
資料 8

【位置図】

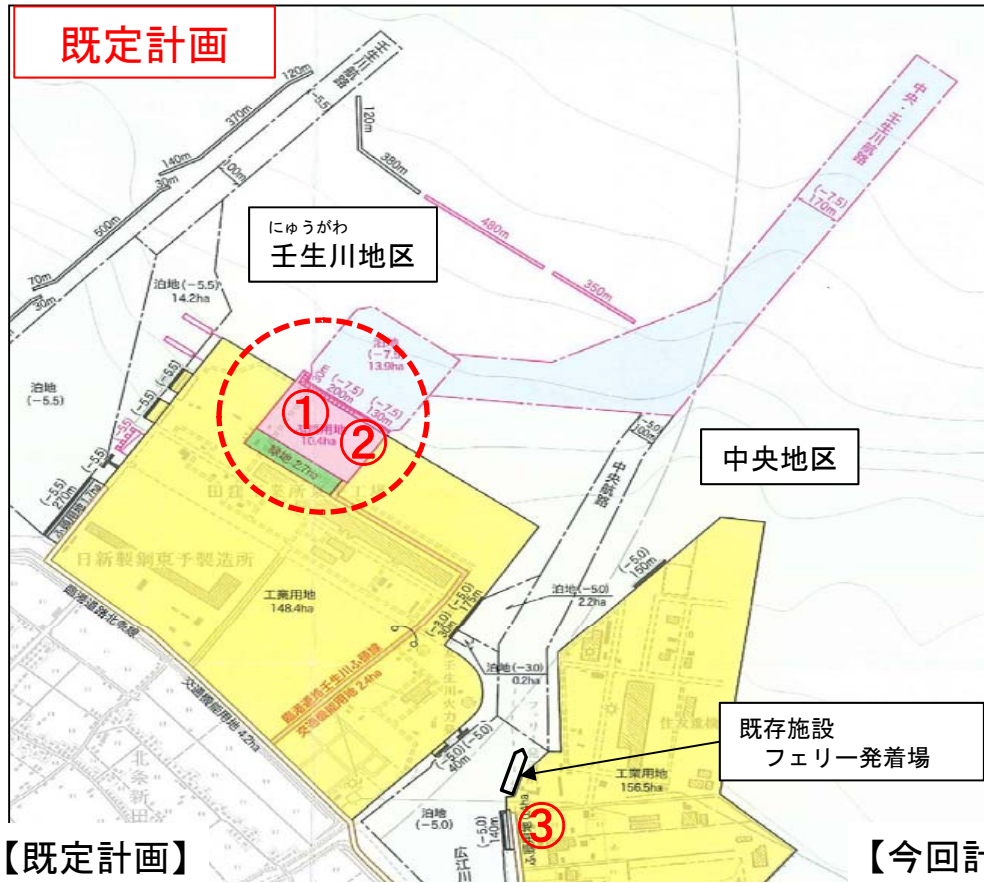


にゅうがわ  
壬生川地区



# 東予港 港湾計画(一部変更) 変更内容

○東予港において、大規模地震災害時における物資の緊急輸送及び住民の避難等の対策を早急に進め、既存ストックを活用した整備とするため、大規模地震対策施設(フェリー埠頭)の配置を壬生川地区から中央地区へ変更する。フェリー埠頭の配置変更に伴い、公共埠頭の再編を行う。



【既定計画】

【今回計画】

	施設名	諸元		港湾計画
①	壬生川フェリー岸壁(耐震)	-7.5m	L=230m	既定計画
②	壬生川岸壁	-7.5m	L=130m	既定計画
③	中央岸壁	-5m	L=140m	既設 (1Bは不荷役)

	施設名	諸元	
①	中央フェリー岸壁(耐震)	-7.5m	L=260m
②	削除		
③	新中央岸壁	-5m	L=110m

# 確認の視点

確認事項	国としての確認の視点
	基本方針※
フェリー埠頭計画	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築</p> <p>(1) 海上輸送網の基盤の強化</p> <p>③ 複合一貫輸送網の強化</p> <p>国内の海上輸送については、輸送費用の低減等のため、船舶の大型化が進んでいる。また、物流の効率化やCO<sub>2</sub>排出量削減の観点から、複合一貫輸送(フェリー、RORO船、貨物自動車、鉄道等複数の輸送手段が一体となって、ドア・ツー・ドアの一貫輸送サービスにより貨物を輸送する方式。以下同じ。)の一層の利用促進が期待されている。</p> <p>さらに、企業のアジア地域との国際分業の進展を受けて、アジア地域内との国際輸送の準国内化(我が国の国内輸送と同様、円滑に提供されること。以下同じ。)を求める荷主ニーズに対応した国際RORO船や国際フェリーの航路拡充が期待されている。このため、国内の長距離輸送において、環境への負荷が少なく、エネルギー効率の高い海上輸送の利用を促進するとともに、アジア地域との海上輸送の準国内化、高速化に対応するため、貨物自動車や鉄道と円滑かつ迅速に結ばれたシームレスな複合一貫輸送網を強化する。</p> <p>また、船舶の大型化等に対応するとともに、幹線道路網と円滑に接続される等複合一貫輸送に対応したターミナルを整備する。加えて、島嶼部や海峡部等海上輸送以外の代替輸送が困難である地域においても、輸送の利便性を向上させるため、複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備する。</p>